

陽明バザー



【陽明学区】

■世帯数：5,614 世帯

■人 口：13,468 人

■面 積：1.791k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・名古屋市総合リハビリテーションセンターを会場にバザーを開催。平成 23 年度までに 24 回開催している。参加者数は約 800 人。
- ・学区内全世帯への抛出品の提供と回収、値札貼り等の準備を呼びかける。
- ・平成 23 年度は地震・台風の被災地への災害義援バザーとして、実行委員会（8 人）を立ち上げて実施した。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧、掲示版への掲示

【アピールポイント】

平成 23 年度で 24 回目の開催と継続して実施している。平成 23 年度の収益金で以下のとおり寄付を行った。

- ・リハセン研究基金＝100,000 円
- ・東日本大震災義援金＝400,000 円
- ・台風 12 号義援金＝125,972 円

2 きっかけ、背景

家庭に眠る不用品（資源）の有効活用を図り、学区の福祉・ふれあい事業と防火・防災・快適なまちづくりに役立てる資金づくりとして開催している。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員、運営協メンバー全員 2日間で計147人以上

4 実施のスケジュール

H23年9月 実行委員会立上げ



10月 全世帯への協力依頼・拠出品提供依頼



11月 拠出品回収（区政協力委員宅で保管）



開催前日 リハビリテーションセンターへ持込み、値札貼付け等会場準備



11月27日 バザー開催、後片付け



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・リサイクルについての住民の意識が高まったほか、住民間の交流が深まった。
- ・平成23年度売上 506,400円 寄付 232,000円
（収益金 625,972円は地震や台風の被災地へ義援金として寄附）

(2) 苦労した点

- ・住民の理解を得ること。拠出品が年々減少している。

(3) 今後の課題・展望

- ・活動の継続が課題。収益金が減少している。（平成23年度は義援金として協力依頼を行ったため寄付金の増加があった。）